

## Cardiovascular Imaging In-a-Month

### ● The Thickening of the Intraventricular Septum in a 32-Year-Old Woman With Normal Electrocardiogram

竹 中 克

Katsu TAKENAKA, MD, FJCC

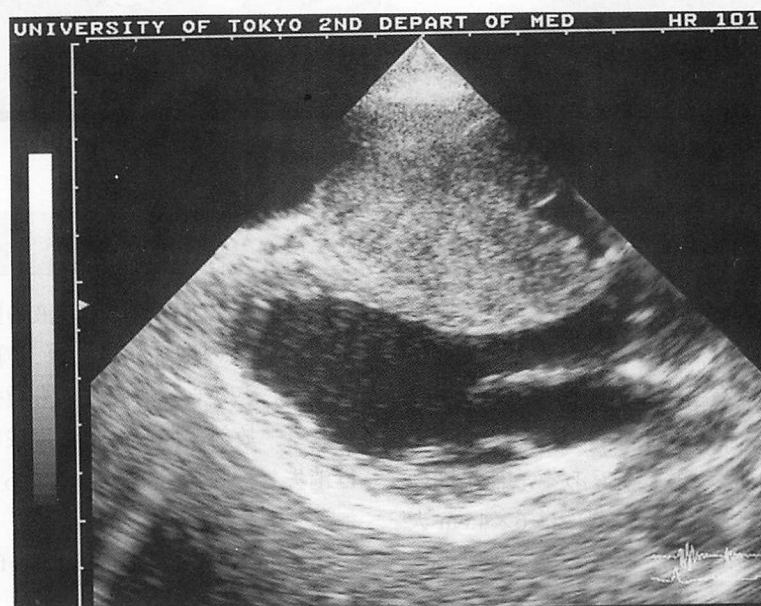


Fig. 1 Echocardiogram of parasternal left ventricular long-axis view

症 例 32 歳，女

主 訴：子宮頸部癌術後状態

現病歴：1995 年 6 月，子宮頸部癌手術

同年 12 月，膈断端部に再発腫瘍出現し，放射線照射を行う。その際，全身転移の検索で，CT にて心臓腫瘍を指摘され，循環器内科に紹介された。心電図に異常はない。

東京大学医学部 検査部：〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

Department of Laboratory Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Tokyo

Address for reprints: TAKENAKA K, MD, FJCC, Department of Laboratory Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113

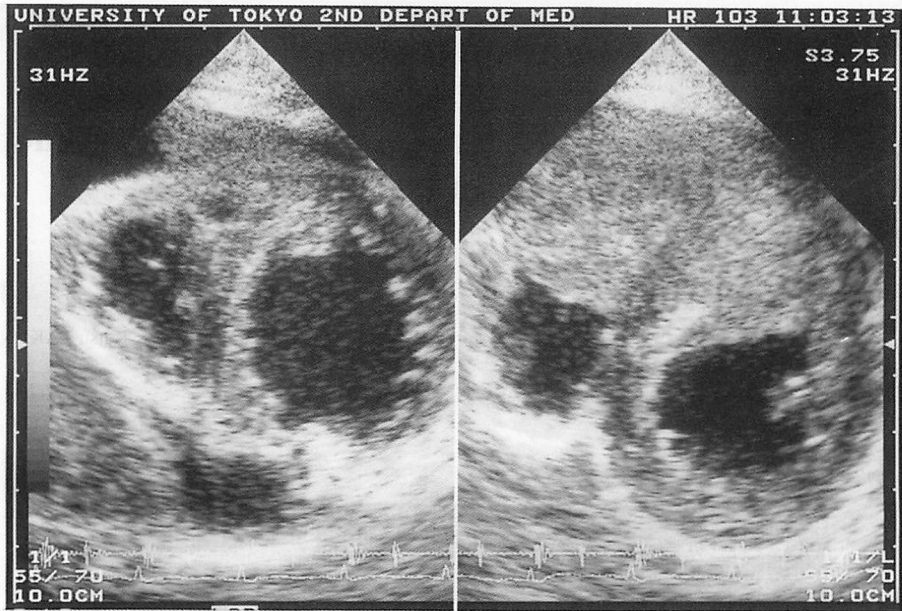


Fig. 2 Echocardiograms of parasternal left ventricular short-axis view

診断のポイント

Fig. 1 の左室長軸断面では心室中隔が著しく肥厚し、一見、肥大型心筋症を疑わせる。しかしよく観察すると、右室壁も厚く、右室内腔が閉塞しているように見え、また右室も肥大しているように見える心室中隔の中に腫瘍の外縁が追えるようである。補足図の Fig. 2 は左室短軸断面であるが、これでは6×4 cm 大の腫瘍が一塊として認識できる。腫瘍は右室壁と心室中隔に浸潤し、一部、左室内腔に顔を出しているよう

である。また下壁側に心膜液の貯留がみられる。その後、心膜液の増加がみられ、穿刺したところ血性であったことから、心膜腔にも腫瘍の浸潤があると考えられる。放射線照射と化学療法により、現在、心膜液は消失し、腫瘍も縮小しつつある。

Diagnosis : Cardiac metastasis from cervical cancer